

Inches

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

Centimetres

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



2913  
1

昭和九年七月六日 贈末

田

初学はつがく此人このひと学問がくもんと云いはす程ほど幾いかにか  
 悟さとりうるとある得え我わが生得なまじりの外ほか子こをを出だす  
 日夜にちや書物あまのりををあがり人ひとのとの間まがどとても未まだ也なり  
 是こゝに時ときなくでも悟さとり得えると難がたし我わが精氣せいきの  
 外ほかを勤こまめたる倦退うへ屈くつしるの事こと問とふはず  
 聖せい意いを悟さとり得えるはず何なにののははず也なり  
 聖せい意いを悟さとり得えるはず何なにののははず也なり

女八賢卷の一

ちかきまのこころをあらわすに  
 ねむりよき本こんの聖せい意いを  
 終つひ年ねんの志しをばし  
 捨すて疾しやく革かく多たく  
 心こころの持もちたるは  
 神かみの草くさ紙しをばし  
 何なにぞか甘あま味あじ二に道みちの  
 此こゝ母ははの児こ女によ童どう初はつ達たつの  
 勸すす学がくの端はたと  
 業わざなり

だのこころのまはるる  
 此こゝ母ははの児こ女によ童どう初はつ達たつの  
 勸すす学がくの端はたと  
 業わざなり  
 唯ただ昔むかし天あま保たも五いつ稔ね甲か午う孟もう春しゅん  
 為な永なが春はる水みづ識しる





原是真間の郷士  
 手古那の三郎が  
 秘蔵の處女艶色  
 無双の勇壯  
 大丈夫にやまら  
 まつる舞々の  
 業に名譽あり

花の心より  
 りの糸を  
 抱きかか  
 りての  
 かげん

石濱の  
 里の  
 舞子  
 ちやぢ

てんまのり

○亭四



続千載集 為教卿  
 豊多の  
 うかまか  
 ままの  
 ままの  
 ままの

ままの  
 入の  
 秋の  
 月の

豊嶋家の侍女  
 櫻木



俊成卿  
 意を  
 人  
 知  
 師  
 あり  
 あり  
 あり

神宮平左衛門の  
 養女於袖



玉藻集  
 後  
 あり  
 あり  
 あり  
 あり

女順礼  
 青柳



從晉傳奇小說膾炙人口如四大  
 奇者皆為晉係名教也這箇妙構  
 亦名教中之一奇豈可不膾炙哉  
 其可其否之間諸處樓虹宮云  
 甲午孟陽 最上羊齋題



貞操婦女八賢誌初編上

東都 狂訓亭主人編次

第一回 興醫業秀齋仕豊島  
 志古郷ヒ女惱雪中

昔時無偶去今年還獨歸古人恩既重不忍更雙飛と漢  
 土の姚玉景が操の秀吟燕雀猶貞行と存ぞ人倫とと貞か  
 久んハ鳥類ももわたりねべ〜今ハ昔應仁元年のころや武藏の國の  
 江戸より西にありて一里の農家商人離軒〜大塚とよふ一所有  
 けり此所ハ八年秋住まきく神宮の後家と呼ぶせり〜四十才に過さる



寡婦一人の娘と申し梅太郎と云ふ名は九才あり  
けが髪は結風衣裳などより男児の如くせりこゝ子育のゆゑ  
のこゝで女主人の他聞ははくろひ防要公より初見はきども男  
童其他のわらどり少なきはゆゑのて男姿に作りしと云ひ  
近隣人までも本形の子と思ふが多かりその神宮の後  
家といふ元當國豊嶋の領主豊嶋の判官信國に仕る神宮  
秀齋といふ医師の妻とて於此とありし者多しが主家内乱の  
節にわたりて其夫秀齋罪をむりて便なき方とありし此  
大にきりしりしと云ひ此里秀齋が出家せしむる古くそ今

甲宮屋平左衛門と云ふ土地は旧名家富むるこゝ秀齋が實家  
と云ふ平左衛門といふ者秀齋が別腹の姉多し於此の  
ところ初其家の僕多しとて兄秀齋ハ幼年より商人の  
業強姦の和漢の史に強よせ詩歌連誹の持びしと等勤の工  
と顧らぬバ継母於奸といひくろが前平左衛門の時許も味せん  
とて謀るやうに左と云ふも秀齋ハ仁術をわざとして世を救ふと  
する氣をもち他はむとも商人の業をばいこく姦が実ありむと  
其頃秀齋が平吉と叫ぶと云ふ欲藏といふ支配人風諒ありて  
そゝりてまやう世に雲霞の勤學と云ふ貧人が書讀は燈油の價

るる雪や雪と燈火のりて學問せしより成功者ししりふれども  
むげが利淫世の中に昼夜寝る日回費し空の満ちるも  
世の物の本のと看るる一果の油紙買錢を以て雪の愛あり  
燈火に換る愚は物よめる人よめる燈し博識とや霍乱と  
ふらりおぼせても其由致看出してさる得るけはまづま儒者  
と勝りし八義習ふて下雅小僧が洗濯老婦の貸き紙寄美  
しるむらもれいりるてあらんやいし鈍き業にこそとあふまを  
ししはて年暮りては天然の君子ありかの欲藏が陰言致すとい  
いふり海む父もゆる文道よく家の老漢とあふりてはまも不孝の

道もやろんと持もさるるむらまのをれり致しるる実小人も  
利小のそまのむらむらとに長く聖賢君子の教の及ん宇遠し  
とあふも真らうりたりと文學の端も出ず活業ありとあふと  
由断せむとどもこのころは元永二十七八年のとうとて毎年に  
去乱止むけむらと文道の武者にも稀くしかあるとあふりて當世  
ありとあふりて経書持文のゆゑ致りて農商の徒に知る由り絶て  
ありきむらとて平素の河をまるとり続むらとてさる倦とありし或  
ひすがも日東鴨もむらと骨董店と差覗き救民良劑とま表題を紙魚葉  
本改むらひむらと好のるを懐もあふりて嫌也し嫌ひらけは

久岐路の風も肌と要をさる傷寒論の大義より百病應驗の奇法と  
集り原病の式細密あり其外俗療の即功をを部門環より記し  
も平素をさる悦びといと重法あるものかこそ幸甚なりと  
ども配劑と不和格候て藥名あるして形と画き四季の榮枯も製法  
もそつまびらうある老婢を昨日今日目をぞ知らざりし背戸や畑の菜葉  
も実良薬とらうこととせよとて自得せりゆこの中の一法とらうとも  
用ひて病に功ありとらう積書の奇特とこそ仁君の賜ありとらう  
脈症候志とらう湯茶とらうとらう外科門の奇事とらう膏油と  
さる煉らうらう奇種異瘡の類を治せん公自他の幸ひらうべしと書す

あらく野分の風も水のしゆ必全る浪切繩を漂ととてゆりしが  
かく神宮屋の丁稚の中に白糸が首の小僧あり平素こそ治し  
んと外科門と細覽し一膏煉らうらうとらうとらうとらうとらうとらう  
神妙ありとこそとらうと平素の奴婢あり病ありとも更なり近記とらうの貧  
人が怪病ありは方より音信と施茶するに毎度其功ありわらうと  
少年のあまよと老婢といととらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう  
全快せし者ども信用するに大方ありとらうとらうとらうとらうとらうとらう  
あま一經書とらう読もつとらう苦もつとらう和丹西家の傳書より漢傳の  
法候わらうとらう珍蔵し累々五臟の病候定しとらう六脈とも明候とらう

第富家の子息多き薬礼とありて毒のほど怪少るる菓子折結多  
腹の薬料平愈の者自神宮屋のぬれ毒の平左衛門礼と述上田  
細結城織より平吉が好むものよりきは財とありて毒を毒礼からるる  
るのころ古今奇代の言多りてそのまじき一死とぞとるるまじき始より  
支配人も幾つぐも毒をさうかしく平吉十六才のころにいつて老医もこ  
と侮れどその名近郷は知れぬひまは豊嶋十條三子の嶋上尾久下尾久持谷  
村荒木田下村稲束志村神宮木敷郷の領主と仰きて豊嶋判官平信  
國の陣營にまき風聴せしと芳名の言くまきとて正長元年九月の中旬  
つひに彼館へ召出さるる食禄多賜りの神宮秀齋と名のついであり

見すきや一 今より三十九年と昔のまじき秀齋が歳二十才のまき秀齋と八  
年以前豊嶋が内乱の時わけて忠直の身よりあがり逆徒の為謀  
らまそ思ふ命必失はし織名取元後に残し其妻於比八三才嫁と  
絶ま二才あり一女子ありのまき母子とも追放さるる軽方多この大塚へ  
ありのまき寡婦より一歳八年が間鬼も角もて過せしと豊嶋の  
の内乱の親族東西に別れまき相賀元平ふ一奇談元本木餘六阿弥陀  
まき八體の如來の縁紀八佛感應の利益によるて八賢女子の出現と  
一回は説くようて發端六回一快近目よ是市まきにらんこの初輯より  
第三輯の追加とまき内護をよめよりして着官の婦女に倦まぬ用



光 元元年の...  
 公之尾様よあかめは心せり止前説同時代應仁より八年常實正元年  
 十二月末の又日の小森より降つて雪は深山のごとく雪吹の礫状むに等しく  
 野末村里白妙の雪はあつたてごとくと身にあらざる寒風もあつた  
 志の懐中に小見の雪は一入の女大塚の里にしろの春も此里より第一  
 と春居軒と並豊の戸は長く蒼鷹に神とふ字の印ある大塚の  
 軒にやうごとく歩むるさうしてり着たるの原をあるまどおびたをり  
 りつる雪の...  
 お見せは...  
 おひや...

公...  
 公...  
 公...  
 公...  
 公...  
 公...  
 公...  
 公...  
 公...  
 公...

























人々社官の宅へ招き集りけし候へこそ家柄の辻義成の御持付にて社官の御  
 外酒頂戴の式使法にも殿を以てしるに之も事分と云ふ村役の  
 由緒の家と云るものも軍用を勤め身なりと常刀を以てしるもの  
 ありしかども源を法陣と社官と親と一殺ひまなりと今日も社  
 官不致せむと務名の業成の傳ひなりと村中の人も落る社官の  
 身後集り村役年寄のいふも一々にしてはさしゆくの外中りも林を敷  
 榮の給仕一人大勢の客ありひとさしつけば社の人々も一イヤ社官の  
 息子の社官が由緒の浪人気と云る母中の身許がまご九才十才  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと

平左どのの内義が伊達の吉屋義成着がめしはつまるを娘ッ子と  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 せんせんして社官の合持の衆取ひ一人の社官のといふはつまるを娘ッ子と  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと  
 なるものもその社官と云ふは人の名なり人の名にひかすなりと





たかひに... 神宮の正統... 貞探婦女八賢誌初編上

貞探婦女八賢誌初編上

女八賢巻の上

